

いちほまれ

いちほまれ栽培No.4

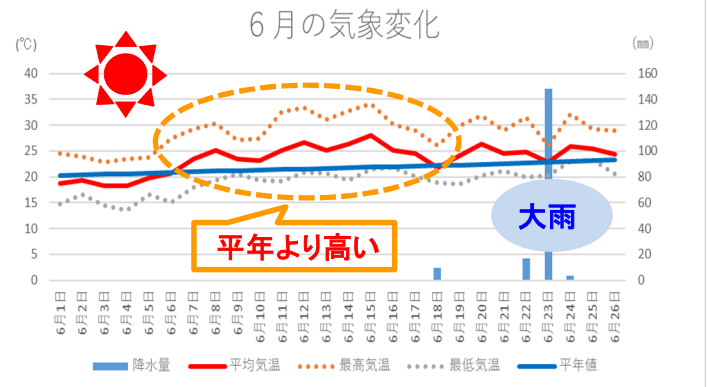
【中干し・間断通水・斑点米対策】

●幼穂形成期までに中干しを終了しましょう! JA福井県

北陸地方は6月22日に梅雨入りし、23日には本県全域で大雨となりました。この天気の影響で冠水した圃場は、稲体が弱いもち病など発生しやすい状況にあるため、殺菌剤を施用するなど対策を行ってください。

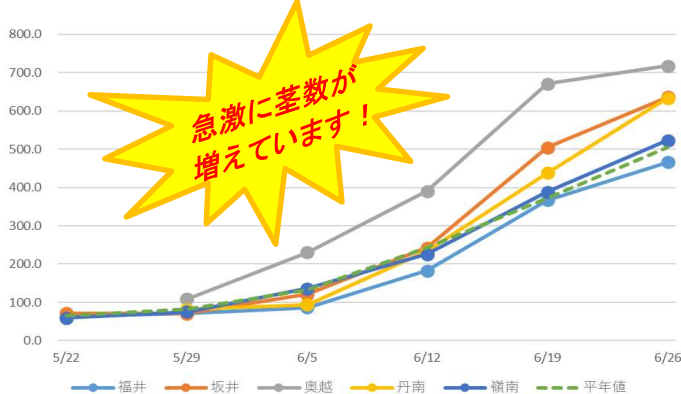
また、中干し期間は10日～2週間を目安とし、幼穂形成期までに中干しを終了してください。なお、今年はカメムシの発生が多い予測ですので、畦畔の草刈りを行い、カメムシの繁殖地をなくしましょう。

北陸地方梅雨入り 6月22日（平年より11日遅い）



1. 生育調査結果（6月26日調査）

■各地域の茎数の推移（本/㎡）



■5月中旬植えいちほまれ現在の茎数

地区	田植方法	茎数（本/㎡）
福井	移植	465.9
坂井	直播	636.0
奥越	移植	717.6
丹南	移植	633.3
嶺南	移植	522.7
平年値		505.3

■幼穂形成期の目安

田植時期	幼穂形成期
5月上旬植え	7月10日頃
5月中旬植え	7月15日頃

2. 適期中干し / 中干し後の水管理

- 中干しは地固め、根の伸長促進の効果があります。中干しの程度は小さいヒビが入る程度とし、干し過ぎると根を切ってしまうため、適宜通水してください。
- 中干し終了後は、水管理が非常に大切な時期になりますので、間断通水を心がけましょう!

間断通水のポイント

自然減水し足跡に水が溜まっているうちに、再び入水を行い圃場が湿っている状態を保つ。
落水したまま数日置くと大きなヒビが入るので、常に水は絶やさない。

3. 斑点米対策



7月に入ると斑点米カメムシ類の第1世代の幼虫が発生します。発生源となる雑草地帯の草刈りを行い、生息密度を下げる取り組みをしましょう!